

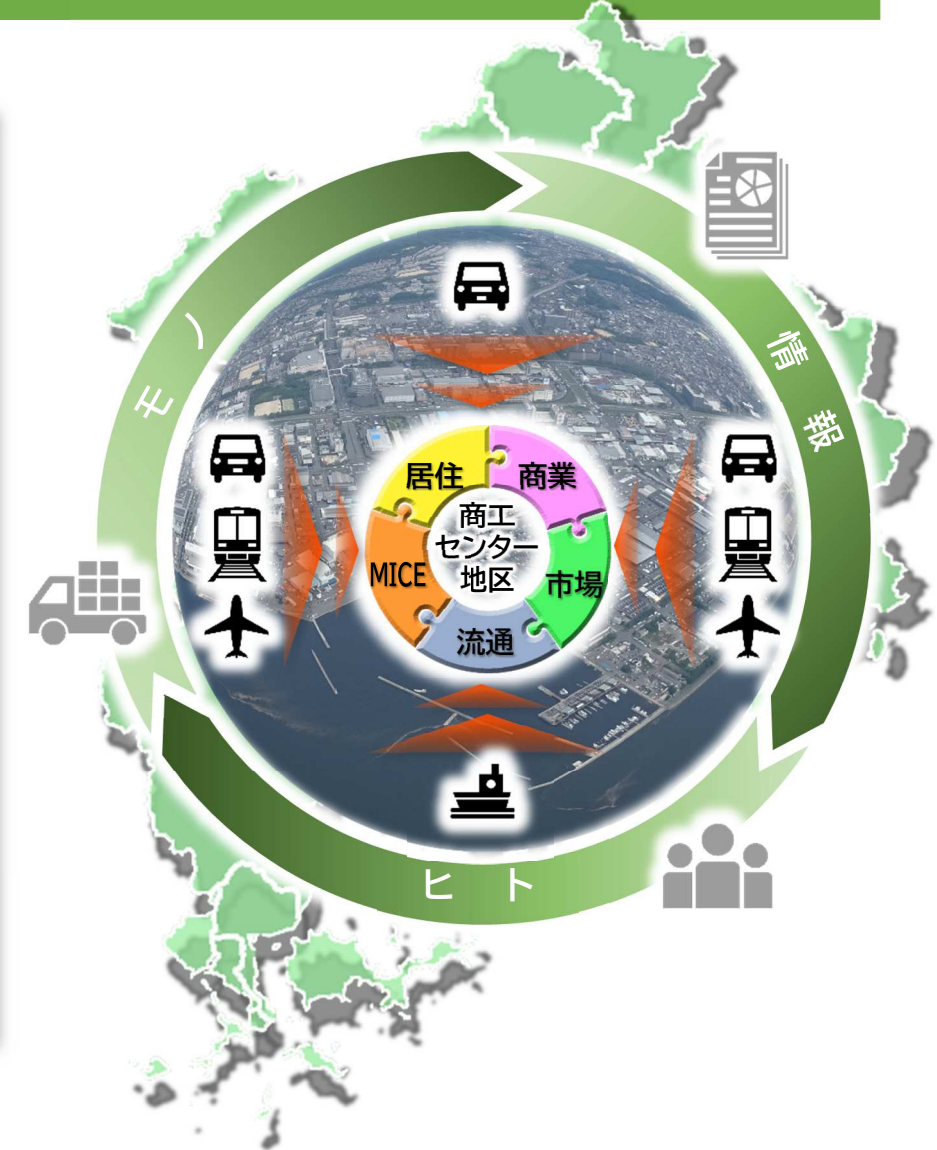
まちづくりの将来像

「ヒト・モノ・情報が交わるまち」

～広島広域都市圏のローカル経済圏を支える西の拠点～

1 まちづくりの進め方

- 商工センター地区は、これまで広域的な流通拠点として発展してきましたが、地区内の事業者が将来にわたり引き続き安定的に事業を継続するためには、埋立竣工から40年が経過し、老朽化した施設の整備・更新を図ることが大きな課題となっています。
- また、こうした整備・更新に当たっては、例えば、社会情勢や市場に係る規制法が大きく変化していることに柔軟に対応しつつ、商工センター地区において年間を通じて多くの市民や観光客までも取り込みながら、地域内の事業者が安定した事業展開が行えるようなハードとソフトの両面にわたる環境構築を目指していく必要があります。
- そのための取組としては、地区全体の活力や魅力向上につながり、さらには、広島広域都市圏のローカル経済圏を支える西の拠点として発展させるという大きな目標設定の下で、行政からの適切な支援とともに、民間投資や関係者の協力などを得ながら着実に進めていくことが重要です。そのために、3段階（ホップ・ステップ・ジャンプ）の手順で進めることとします。
- まず、「ホップ」においては、関係者間のまちづくりについての認識の共有を図るために「まちづくりビジョン」を策定し、次に、「ステップ」においては、共通認識の下で具体的なまちづくりを進めるための基礎となる共通基盤を構築します。その上で、「ジャンプ」においては、共通基盤を有効に活用することができるよう各施設の充実強化を図ります。こうしたプロセスを通じて先導的な取組を行っていきます。
- こうした取組が順調に進んだ場合、にぎわいと流通業務機能との調和を図るための基本的なまちづくりについては、概ね15年で達成を見込んでいます。



2 まちづくりの基本コンセプト

まちづくりの基本コンセプト

次の三本柱からなるまちづくりを目指します。

コンセプト
1

MICE 施設の新設

既存の MICE 施設の規模や機能を拡充したものを、周辺の商業・市場・流通・居住機能との連携や一体性を高めることが可能となる場所に新設することにより、地区全体の魅力向上を図る

コンセプト
2

交通機能の強化

陸と海の玄関を備え、ヒトやモノが地区内を円滑に移動できるよう交通機能の強化を図る

コンセプト
3

にぎわいの創出

年間を通じて多くの市民や観光客が地区を訪れることによりにぎわいを創出するとともに、流通業務機能との調和を図る

本市における MICE 施設(展示機能)の必要性や望ましい立地の考え方

- 本市全体で展示機能を有する MICE 施設が不足
- 中小企業会館(総合展示館)は老朽化が進んでおり、他都市と比較すると展示室面積が不足していることや耐震性がないことから建替等が必要
- 十分な展示機能が確保された MICE 施設の整備には大規模な敷地が必要
- MICE 施設周辺には催事主催者等が宿泊するホテルの存在が重要
- MICE 施設で開催される展示会やイベント等には車による来場者が多数見込まれるため、駐車場の確保が重要
- MICE 施設には、鉄道や航路を始めとする多様で広域的な交通によるアクセス手段の確保が重要
- MICE 施設整備には地域等の理解や期待が重要

まちづくりの将来像と基本コンセプトについて（たたき台）

コンセプト
1

MICE 施設の新設

既存の MICE 施設の規模や機能を拡充したものを、周辺の商業・市場・流通・居住機能との連携や一体性を高めることが可能となる場所に新設することにより、地区全体の魅力向上を図る

- 今後、中小企業会館や広島サンプラザ本館・ホール棟などの MICE 関連施設が順次耐用年数を迎えます。MICE 関連施設の整備に当たっては、既存施設を取り壊す前に新施設を整備するなど、利用者への影響が少なくなるよう取り組みます。
- まず、耐震性が確保されていない中小企業会館（総合展示館）の移転更新のため、展示機能に主体を置いた MICE 施設（展示室（約 6,000m²）・会議室（約 800m²）※別紙参照）を整備します。その後、MICE 施設の整備等により誘発される民間投資を活用して、ホテルや卸センターを始めとした地区内事業者等の交流拠点を一体的に整備します。
- さらに、需要に応じながら、MICE 施設（展示室・会議室）の拡張を検討します。あわせて、広島サンプラザ（ホール棟・サブホール）の代替施設を整備します。



出典：国土交通省ホームページ（<https://plateauview.mlit.go.jp/>）を加工して鳥観図を作成

	第1段階	第2段階	第3段階
既存MICE施設の段階的な更新・整備手順			
	<ul style="list-style-type: none"> ●まず、耐震性が確保されていない中小企業会館（総合展示館）の移転更新のため、MICE 施設（展示室・会議室）を整備し、その後、中小企業会館（総合展示館）を解体する。 ●MICE 施設の整備にあわせて立体駐車場を整備するとともに、西部埋立第五公園の改修を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●次に、MICE 施設による周辺への民間投資の誘発などを踏まえながら、ホテル等（地区内事業者等の交流拠点）が整備されるタイミングで、中小企業会館（本館）を解体する。 ●ホテル等の整備にあわせて西部埋立第六公園の改修を行う。 ●ホテル等の整備後に広島サンプラザ（本館棟）を解体する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●需要に応じながら、MICE 施設（展示室・会議室）の拡張を検討する。 ●あわせて、広島サンプラザ（ホール棟・サブホール）の代替施設を整備するとともに、西部埋立第五公園及び西部埋立第六公園の再整備を行う。

地区内事業者等の交流拠点（アクティビティセンター）

- 卸センターを始めとした地区内の事業者や住民が日常的に交流し、地区の活性化に資する地元主体の活動拠点づくりについて、まずは、地区内関係者と共に整備内容の具体化を図ります。
- その後、MICE 施設の整備等により誘発される民間投資を活用して、ホテルとの一体的な整備に取り組みます。



導入機能の事例

まちづくりの将来像と基本コンセプトについて（たたき台）

コンセプト

2

交通機能の強化



陸と海の玄関を備え、ヒトやモノが区内を円滑に移動できるよう交通機能の強化を図る

- 広域的な流通拠点である商工センター地区に、年間を通じて多くの市民や観光客が訪れるようにしていくためには、ヒトやモノの動きを支える交通機能の強化が不可欠です。
- このため、本市が進める広島型の新たな公共交通システム構築の動きと歩調を合わせながら、区内施設やにぎわいづくりなどのまちづくりの進展に応じたヒトやモノの動きを支える持続可能な公共交通づくりに取り組みます。また、こうした公共交通により、地区に訪れる観光客や地区で働く人々などの移動の利便性も確保していきます。
- 駅については、地区の発展にふさわしい交通結節点にしていくため、交通事業者と連携しながら利用者の利便性や安全性の向上に資する機能強化に取り組みます。また、草津漁港の観光港化による海からのアクセスを確保することで、陸と海の玄関を備えた人が集まりやすい地区にしていきます。
- さらに、集まった人が区内で容易に移動できるように駅と港、周辺施設との接続性を高めるため、MICE 施設の整備にあわせながらペDESTリアンデッキを延長し、周辺施設と一体となったにぎわい空間を創出するとともに、区内を運行する循環交通や、パーソナルモビリティを順次導入していきます。

駅等の交通機能の強化

駅舎等の改良

- まずは、バリアフリー化の早期実現に向けてエレベータの設置を進めます。
- 次に、地区のまちづくりの進展などによる利用者の増加に対応するため、滞留空間の拡大や動線の確保などの改良に取り組みます。
- さらに、将来的には、様々な交通モードにおける結節機能の集約を目指します。

乗降場等の整備

- 駅の乗継ぎ利便性を高めるため、駅周辺の公共空間を活用してタクシーやマイカーのための乗降スペースを設置するとともに、バリアフリー化などによる最寄りバス停等から駅へのアクセス改善などに取り組みます。

ペDESTリアンデッキの延長

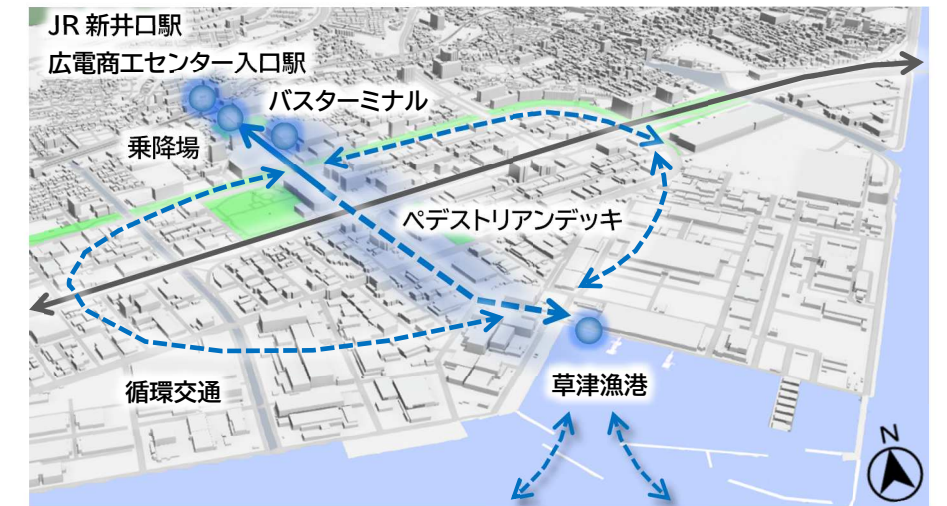
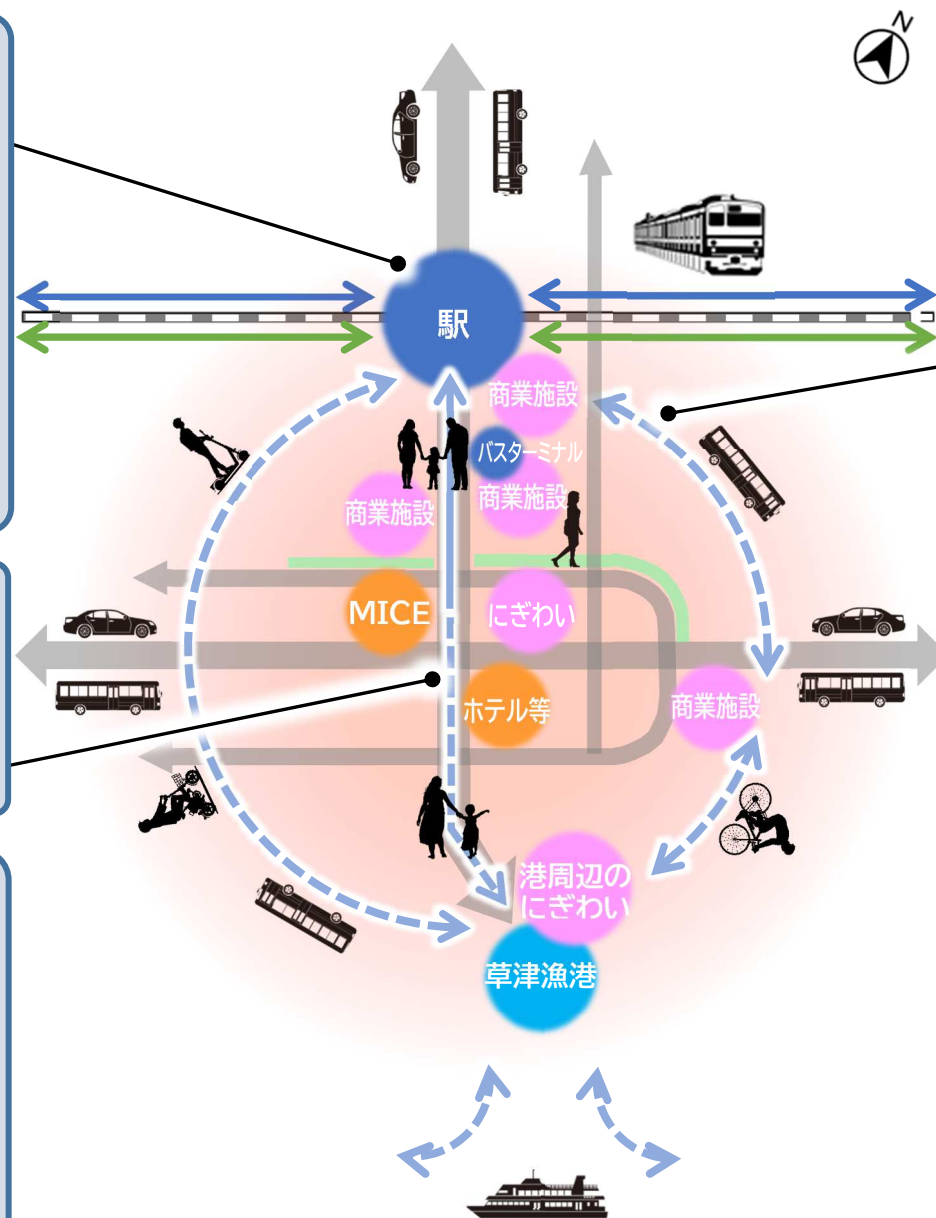
- まずは、MICE 施設（展示室等）の整備に合わせて当該施設まで延長します。
- 次に、ホテル等の整備に合わせて当該施設まで延長します。
- さらに、草津漁港までの延長については、港周辺のにぎわいづくりの状況や沿道の土地利用、周辺事業者の意向などを踏まえながら整備を検討します。

スマートモビリティ

- 区内にある多様な交通モードの利用や地区外施設とのアクセス、飲食店や宿泊地などを含めたシームレスな移動を実現するため、MaaS の取組を推進します。
- また、自動運転や超小型モビリティ、「空飛ぶクルマ」などの新技術を活用した交通 DX^{*1}・GX^{*2}についても、地域の関係者と連携を図りながら、将来的な課題として取り組みます。

※1 自動運転等のデジタル技術の実装を目指すもの

※2 車両の電動化等による低炭素化の取組を推進するもの



回遊性の向上

パーソナルモビリティの導入

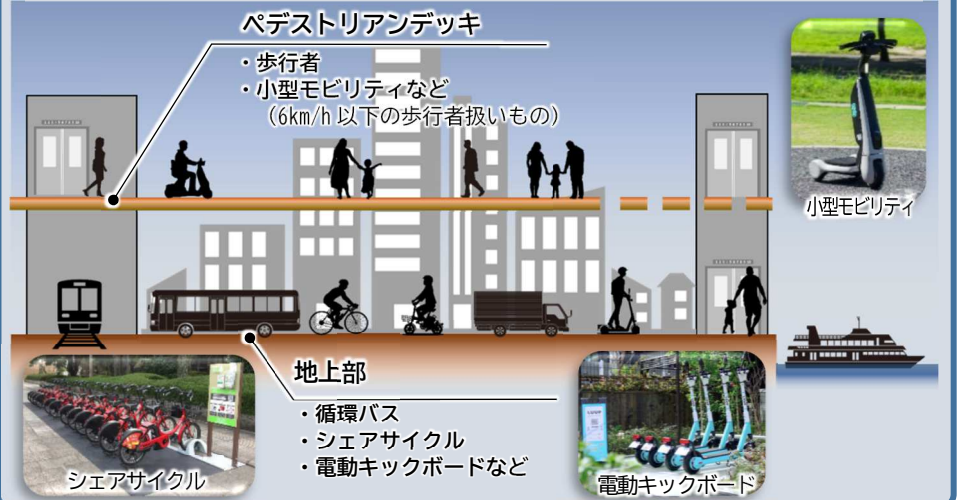
- 区内施設間の移動を円滑にするため、まずは、パーソナルモビリティ（シェアサイクル、電動キックボードなど）の導入を図ります。

循環交通（バス）の導入

- 市が交通事業者と協働で進めている広島型公共交通システム構築に向けた動きと歩調をあわせながら、地区に訪れる観光客や地区で働く人々などの移動の利便性に資する区内循環バスの導入を図ります。

《回遊イメージ》

ペDESTリアンデッキ上は歩行者専用のため、歩行者扱いとなるモビリティに限定し、地上部にその他のモビリティを導入する。



周辺地域とのアクセス改善

陸上交通

- この地区における事業活動の活性化によるまちづくりに資するためにも、西広島バイパスの都心部延伸や広島南道路全線の早期完成（高架部を含む）に向けて、継続的に国に要望します。

海上交通

- 草津漁港の観光港化に向けて、地元漁業者等の理解を得ながら、県や国と調整の上、まずは、宮島や原爆ドームなどを結ぶ社会実験航路に取り組みます。
- 次に、イベントにあわせた不定期観光船運航に取り組みます。
- その後、港周辺のにぎわい施設の需要も踏まえながら、航路の定期化や近隣自治体（岩国市や松山市など）への運航エリア拡大などを図っていきます。

まちづくりの将来像と基本コンセプトについて（たたき台）

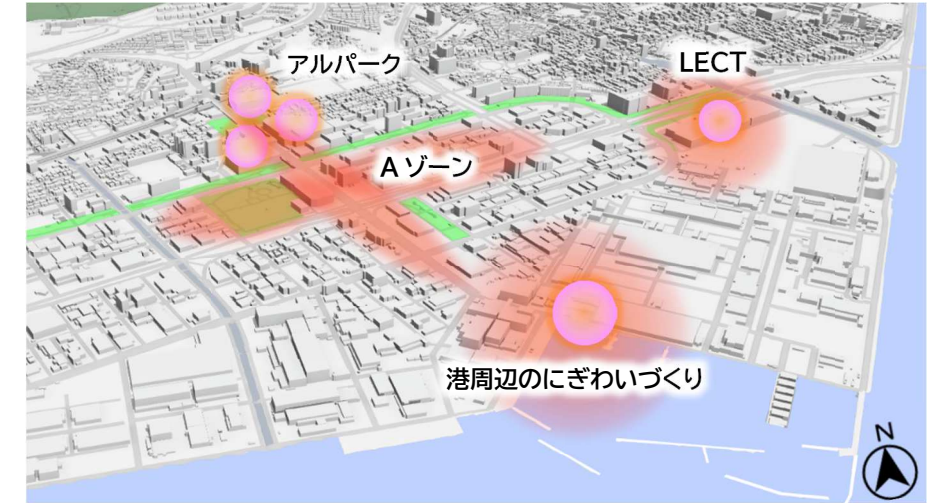
コンセプト

3

にぎわいの創出

年間を通じて多くの市民や観光客が地区を訪れることによりにぎわいを創出するとともに、流通業務機能との調和を図る

- MICE 施設周辺などにおいて、飲食・物販施設等の立地を誘導するとともに、それに必要な規制緩和に取り組みます。並行して、草津漁港の観光港化による海からのアクセスを確保することで、港周辺のにぎわいづくりに取り組みます。
- さらに、観光客や MICE 施設の来街者を対象としたイベント等が西部周遊緑地などの公共空間を活用して開催できるよう、新たなにぎわい空間などの整備に取り組みます。



港周辺のにぎわいづくり

にぎわい施設の整備

- 新中央市場のにぎわい施設が関係者のみならず、地区全体の活性化につながるものとなるようにするため、まずは、整備内容を具体化し、場内関係事業者と協議の上、整備していきます。
- その後、市場のにぎわい施設と連携しながら、周辺のエリアにおいても、飲食・物販施設等の立地を誘導します。



広島市中央市場：市場まつり

市場のにぎわい施設のイメージ

草津漁港の観光港化

- 草津漁港の観光港化に向けて、地元漁業者等の理解を得ながら、県や国と調整の上、まずは、宮島や原爆ドームなどを結ぶ社会実験運航に取り組みます。
- 次に、イベントにあわせた不定期観光船運航に取り組みます。



シースピカ

草津漁港を活用した国の実証実験

- その後、港周辺のにぎわい施設の需要も踏まえながら、航路の定期化や近隣自治体（岩国市や松山市など）への運航エリア拡大などを図っていきます。



水産振興センターの更新

- 施設の更新に当たっては、水産業への理解を促進する既存機能等が港周辺のにぎわい創出にもつながるよう、整備場所なども含め、関係者と調整します。

公共空間(オープンスペース)の活用によるにぎわいづくり

- にぎわいを特定の施設だけでなく地区全体に拡大していくため、地域や商業施設、地区内事業者等が連携してイベントを開催します。
- 西部周遊緑地を再整備します。西部周遊緑地やペDESTリアンデッキなどの整備に当たっては、イベント等に活用できるたまり空間や憩い空間などを整備します。



ペDESTリアンデッキや公園を活用したイベント

緑道の再整備事例

周辺商業施設との連携

- 周辺の商業施設において、港周辺のにぎわいや MICE 施設等と連携したイベントを開催します。
- さらに、まちづくりの進展に応じながら、店舗リニューアルや商業施設周辺の再開発を促します。



周辺商業施設と連携したイベント

規制緩和によるにぎわいづくり

- 新たなにぎわいの受け入れに向けて、Aゾーンで来街者向けの飲食・物販施設等の立地が実現可能となるよう、必要に応じ段階的な規制緩和に取り組みます。
- また、港周辺のにぎわいづくりに向けて必要な規制緩和に取り組みます。



Aゾーンで実施された飲食・物販イベント



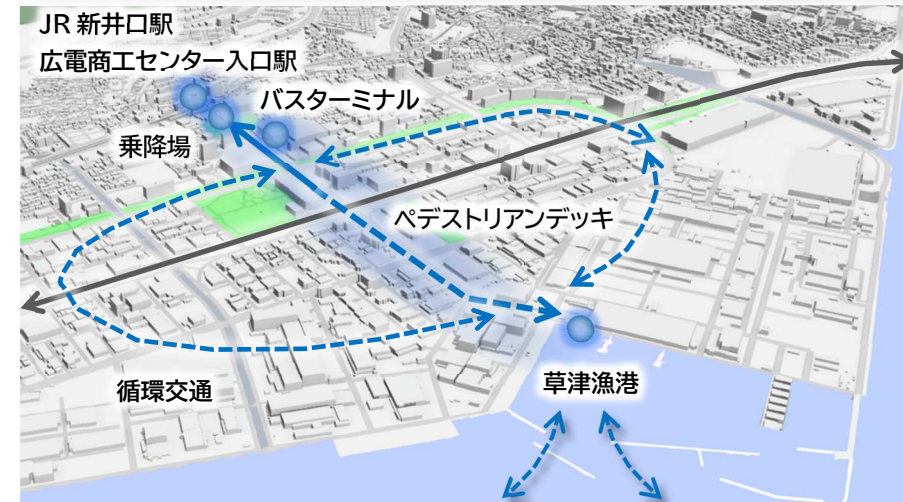
まちづくりの将来像と基本コンセプトについて (たたき台)

基本コンセプトの全体図

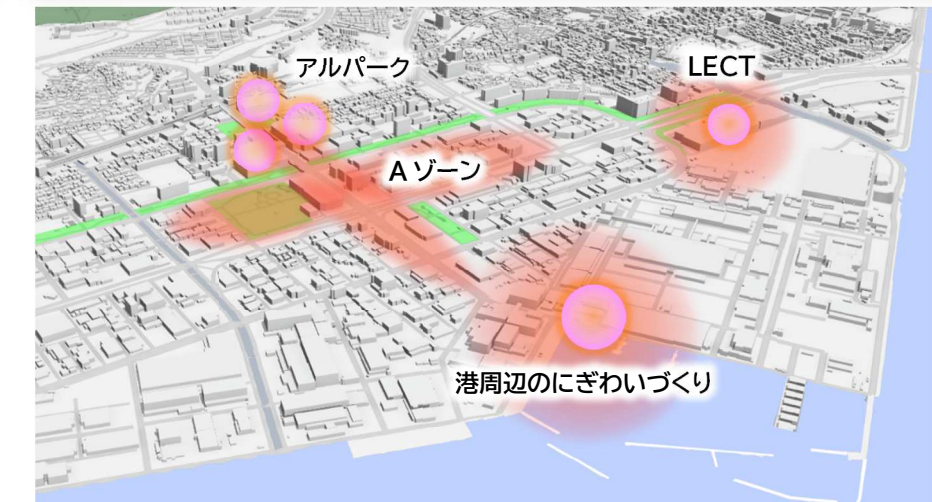
コンセプト 1 MICE 施設の新設



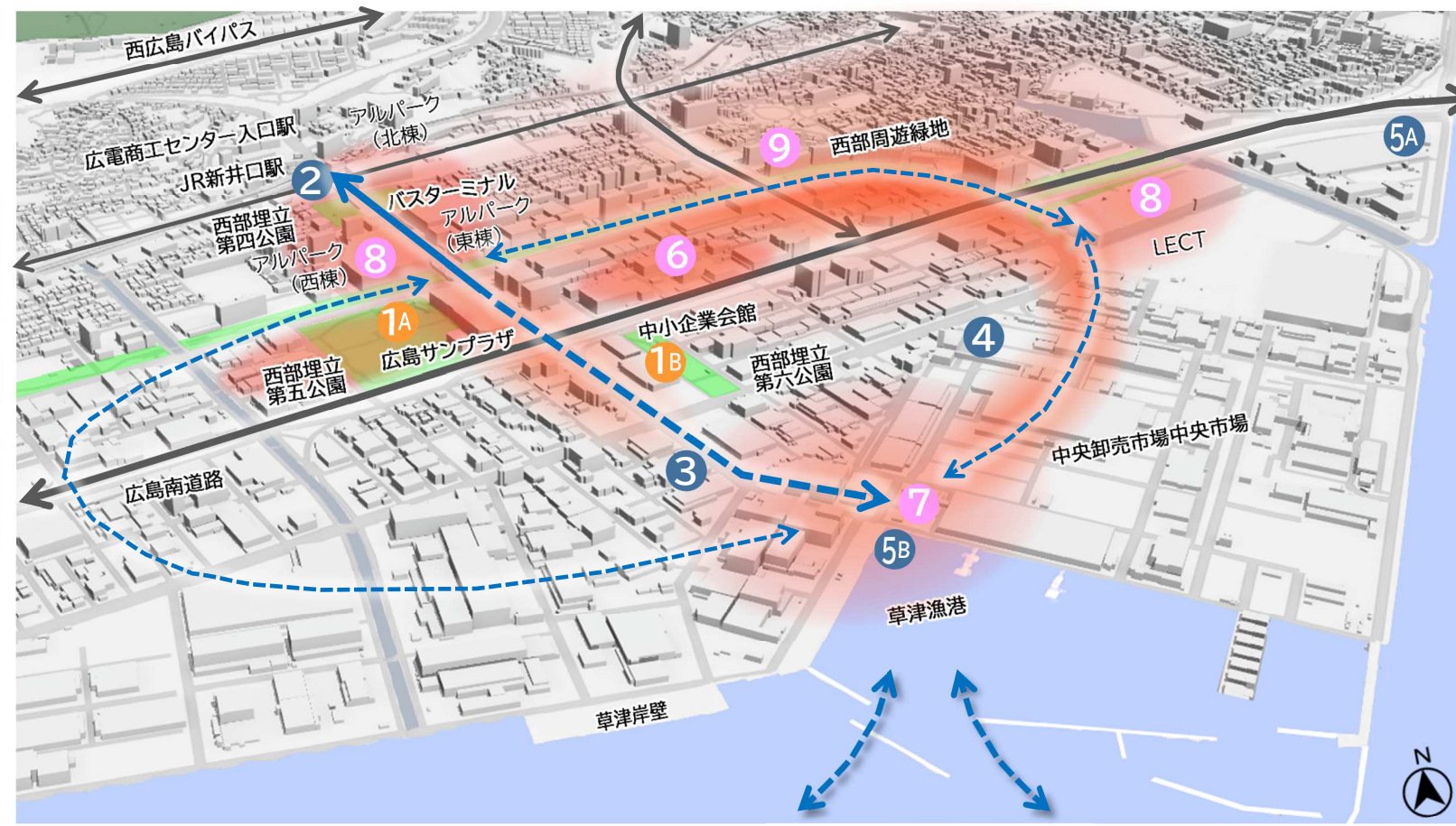
コンセプト 2 交通機能の強化



コンセプト 3 にぎわいの創出



- ①MICE 関連施設の整備**
 - MICE 施設の整備・拡張(A)
 - ホテル・地区内事業者等の交流拠点の整備(B)
 - 広島サンプラザ(ホール棟・サブホール)代替施設の整備(B)
- ②駅等の交通機能の強化**
 - 駅舎等の改良
 - 乗降場等の整備
- ③ペDESTリアンデッキの延長**
- ④回遊性の向上**
 - パーソナルモビリティ(シェアサイクル、電動キックボードなど)の導入
 - 循環交通(バス)の導入
- ⑤周辺地域とのアクセス改善**
 - 陸上交通(A)
 - 海上交通(B)
- スマートモビリティ**



- ⑥規制緩和によるにぎわいづくり**
- ⑦港周辺のにぎわいづくり**
 - にぎわい施設の整備
 - 草津漁港の観光港化
 - 水産振興センターの更新
- ⑧周辺商業施設との連携**
 - MICE 施設等と連携したイベント開催
 - 店舗リニューアルや商業施設周辺の再開発
- ⑨公共空間の活用によるにぎわいづくり**
 - 地域や商業施設等と連携したイベント開催
 - 西部周遊緑地の再整備